

平成 28 年度 東京都内湾水生生物調査 10 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 28 年 10 月 14 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 19.2～21.2℃、調査地点の風は弱く、海は静穏であった。調査当日は中潮で、干潮が 9 時 30 分、満潮は 15 時 54 分であった(東京都港湾局のデータ)。

10 月は干潟を利用する稚魚が少ない時期と考えられ、8 月調査時に比べ種類数、個体数ともに少なかった。種類数をみると、城南大橋では、夏から秋にかけて干潟で生活するヒラギ、シロギスを含む 4 種であったが、お台場海浜公園と葛西人工渚では、ビリンゴやヒメハゼ等 2 種であった。

マハゼは、城南大橋とお台場海浜公園で成魚サイズがそれぞれ 1 個体採集されたのみで、ほとんどが深所(周辺域)に移動したのと考えられる。

2016/10/14	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	9:13-10:00	10:32-11:03	11:35-12:49
水温(℃)	20.6	21.8	20.1
塩分	14.6	23.4	5.0
透視度	72.0	100 以上	72.0
DO(mg/L)	5.5	6.1	6.1
DO飽和度(%)	66.7	79.9	90.3
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH	7.3	7.7	7.6
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	干潟の干出面積は、これまでで最も狭かった。最干時から上げ潮にかけて調査を行った。	70 名程の観光客がいた。汀線付近は透明度が高く、海底の礫にはアオノリ類が生育していた。上げ潮時に調査を行った。	汀線付近では、カワウやカモメ類の群れが休息していた。上げ潮時に調査を行った。

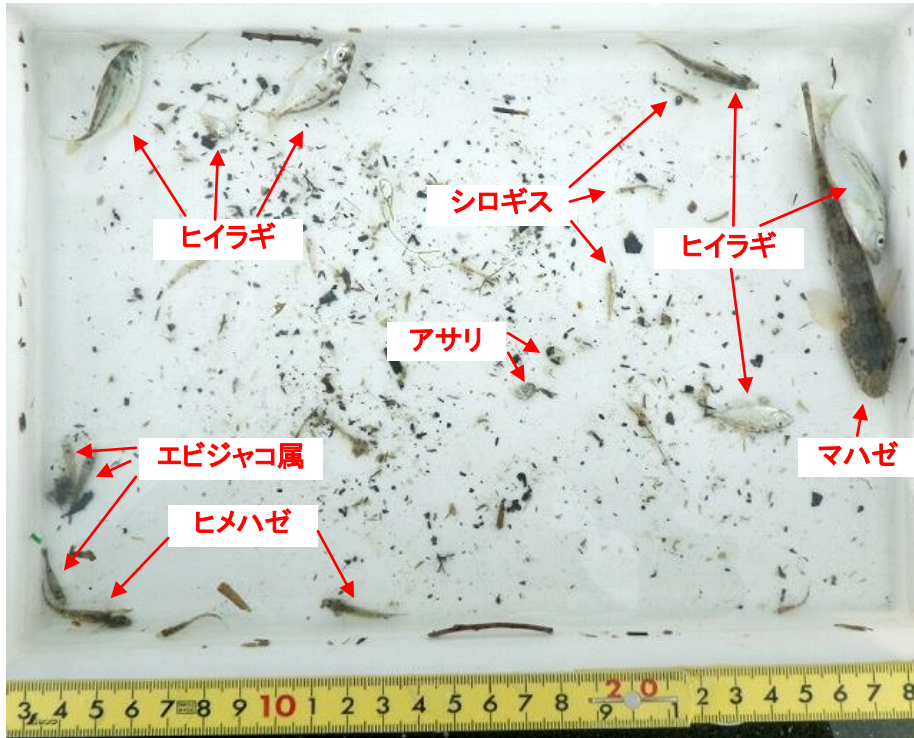
●主な出現種等 (速報のため、種名などは未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	ヒラギ(+)	ビリンゴ(r)	ヒメハゼ(r)
	シロギス(+)	マハゼ(r)	ボラ(r)
	ヒメハゼ(r)		
	マハゼ(r)		
魚類以外	エビジャコ属(+) アサリ(+)	ホトギスガイ(r) ユビナガスジエビ(r)	ニホンイサザアミ(G) シラタエビ(m)
備考	他にアラムシロガイ等が採取された。	他にニッポンドロソコエビ等が採取された。	他にエビジャコ属等が採取された。

注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

城南大橋西詰めにある小規模な干潟で、北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等



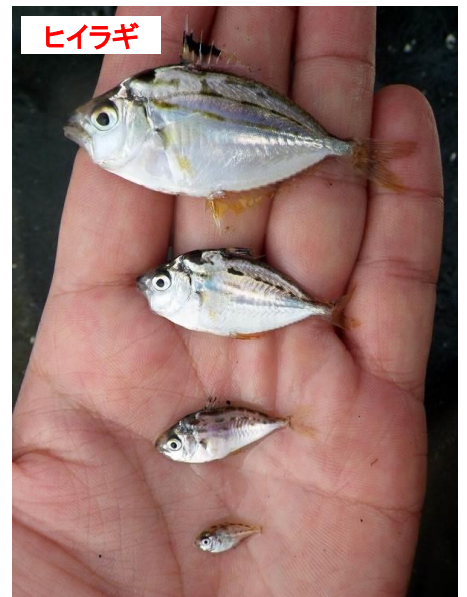
シロギス

東京湾では、湾中央から外湾にかけての砂浜海岸などで多くみられる。仔稚魚は6~10月に出現し、砂浜海岸に来遊した体長5~7mmほどの仔魚は、動物プランクトンやアミ類などを食べて成長する。釣魚として人気があり、刺身、天ぷらなどで賞味される。



マハゼ

内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は、初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。成魚サイズが1個体採取されたが、ほとんどの個体は深所へ移動したと考えられる。



ヒイラギ

東京湾では、湾全域の干潟域や砂浜海岸、漁港などで普通にみられる。

干潟域には、体長6~7mm程の仔魚が6~8月にかけて来遊する。動物プランクトンを食べながら成長し、10月には3~4cm程になる。背鰭と臀鰭の棘は鋭く、体全体がヒイラギ(柊)の葉の様である。



ヒメハゼ

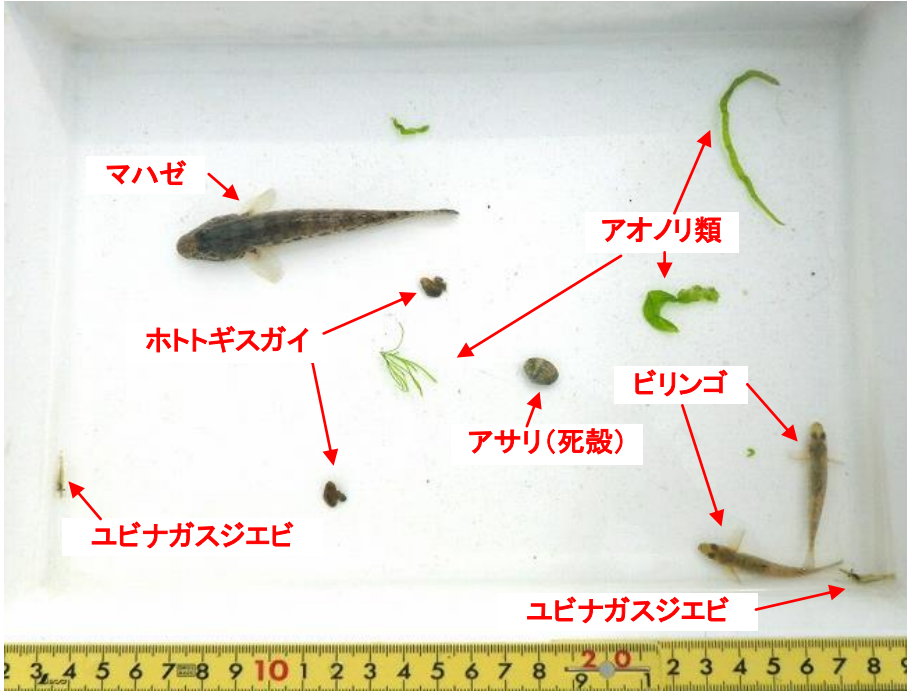
内湾の河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。体の模様は砂の色にそっくりである。城南大橋の干潟では、周年みられる種類の一つ。



アサリ

潮干狩りなどで馴染み深い、代表的な二枚貝。東京湾のものは形が細くて、模様のコントラストが強いものが多い。

お台場海浜公園 採取試料



レインボーブリッジの袂にある人工の渚。台場公園や鳥の島で囲まれており、静穏な場所である。

●主な出現種等



湾奥から湾奥にかけての河口域や潟湖に主に生息する。中層を群れで遊泳し、動物プランクトンを食べている。お台場海浜公園、周年みられる種類の一つ。



お台場海浜公園では、春季に大量の仔稚魚が来遊する。稚魚は、初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。成魚サイズが1個体採取されたが、ほとんどの個体は深所へ移動したと考えられる。



汽水域に生息する小型のスジエビ類で、体長は5cm程になる。体には明瞭な縞模様はない。外洋に面した潮溜まりなどでは、同じ仲間のイソスジエビがみられる。



砂泥底に生息するムラサキガイの仲間。富栄養な海域では、互いに足糸(そくし)を絡ませて集団で泥の表面を覆い、マット状になることが多い。

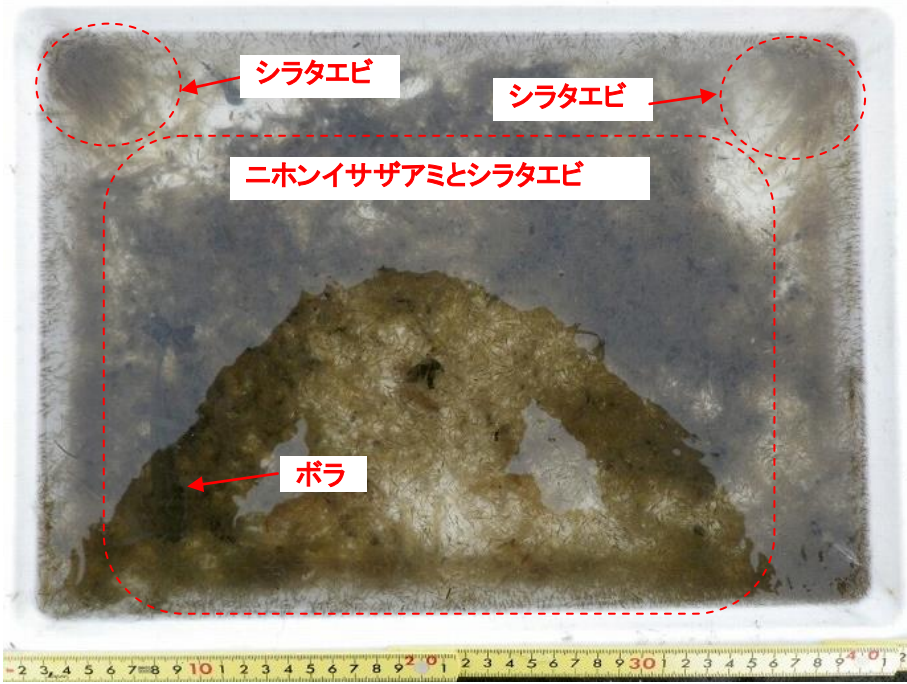


体長1~2cm程になるヨコエビの仲間。泥~砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。東京湾では最も普通にみられるヨコエビの一つ。



アオサの仲間(緑藻類)。東京湾湾奥の河口等の汽水域では、スジアオノリ、ボウアオノリ、ヒラアオノリ等が生育する。食用になり、乾燥させて粉末状にしたものが「青のり」である。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。一般の立ち入りは禁止されており、野鳥の楽園となっている。

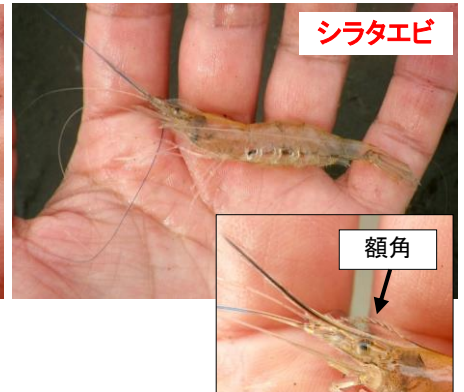
●主な出現種等



内湾の干潟域では最も個体数の多い遊泳魚の一つである。干潟域には、早春から夏にかけて滞在し、徐々に成長する。汀線付近で大群がみられたが、動きが速く採集できたのはこの1個体であった。



内湾の河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息し、体の模様は砂の色にそっくりである。上唇(上顎)に1本の黒い縦線があるのがヒメハゼの特徴の一つ。



汽水域に生息し、スジエビ類よりも大型で、体長7cm程になる。触角が青く、額角(がっかく:頭の上面のトゲ)がトサカ状に盛り上がる。



内湾の砂泥底に生息し、魚類の稚魚などを捕食することが知られている。砂の中に素早く潜り身を隠す。体の模様も砂の色にそっくりである。



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間でない)である。魚類等の餌となり、食物連鎖において植物プランクトン等生産者のエネルギーを上位の消費者に渡す重要な役割を果たしている。



ヨシ原周辺の干潟上で確認された。胸鰭を使って泥面上を這い回り、小動物を捕食する。東京湾に分布する集団は、本種の分布の北限にあたる個体群である。